

一般社団法人国際再生医療普及協会
認定再生医療等委員会議事要旨

日 時：2024年12月11日（水）15：42～15：48

開催場所：Web／新丸の内ビル 11階会議室

	摘要	氏名	出欠	利益相反	
				医療機 関	委員会 設置者
1	再生医療等について十分な科学的知見及び医療上の識見を有する者	石井 伊都子	○	無	無
		鈴木 邦子	○	無	無
		齋藤 康	○	無	無
		落谷 孝広	×		
		寺井 崇二	×		
		中林 正雄	×		
		竹本 稔 ※委員長	○	無	無
		佐野 明彦	×		
		木田 泰之	○	無	無
		林 邦彦	×		
2	医学又は医療分野における人権の尊重に関して理解のある法律に関する専門家又は生命倫理に関する見識を有する者	中村 智広	×		
		川上 祐美	○	無	無
3	一般の立場の者	宮内 明子	×		
		中山 ちはる	○	無	無

配付資料（事務局受領年月日；2024年10月25日）

資料1 別紙様式第三 再生医療等提供状況定期報告書 2024年10月25日付

一般社団法人国際再生医療普及協会特定認定再生医療等委員会規則第6条第3項の定めにより、竹本委員長は議長となり、本委員会の開会を宣言し、本日の出席委員を報告した。ついで本委員会の審議に必要な法定の成立要件を充足している旨を述べた。

審査：定期報告

医療機関：医療法人龍志会 IGT クリニック

管理者：堀 篤史

議題：悪性腫瘍に対する $\alpha\beta T$ 細胞の静脈投与による免疫細胞療法

結果：適

堀医師より、本件における定期報告についての説明が行われた。

当該期間に 1 例実施した、有害事象は発生しなかった。

投与（中止）した 1 例は十二指腸乳頭部がん肺転移で、2 週間毎投与で、計 6 回投与した。3 回目の点滴後、腫瘍マーカーが上昇した。海外から来られている患者で、帰国されたので連絡を試みたところ、帰国後 1 か月で呼吸不全が原因で死亡したとの事。

質疑応答にて、安全性には問題なかったが効果が認められなかったことについての問いに対し、病理で免疫腺がんと診断されており、粘液産生により肺や喉へ転移して呼吸不全に至ってしまったことが考えられたと説明された。また適切な治療時期について、他の治療手段がなかったため、本療法が適切だと判断しているとのこと。

審議の結果、参加委員全員一致の「適」という意見であった。

以上